

【実施区域・面積】

京都府、 24.1ha

【生態系タイプ】

里山林、草地、水田、畑、果樹園、
創出緑地、湖沼

【実施区域の状況】

京都府相楽郡精華町の関西文化学術研究都市内に立地する都市公園である。もともと里山だった場所と農業用のため池を残す形で公園がつくられた。里の風景をモチーフに芝生広場、散策路、日本庭園「水景園」などが造成された。また、水景園の奥には里山環境をほぼそのまま残した芽ぶきの森がある。2023年度は年間約53万人の利用があった。利用者および生物への配慮で、基本的に除草剤や殺虫剤を使わない管理を行っており、里地里山に典型的にみられた生物が多く生育・棲息している。近年では地域の小中学校向けの環境学習にも注力している。

【目標】

景観的にも自然環境的にも里地里山の環境の維持・回復につとめ、生物のリフュージアや休息地として機能する場所とする。また、その自然環境を活かし、学びの場として活用することで普及啓発につなげる。

【主な活動内容】

里の景色をテーマにつくられた公園として、景観の維持とともに生物に配慮した管理作業を行う。以下の3点が基本的な考え方である。

- ・安全性と景観に配慮しながら、生物の棲み処となる場所を増やす
- ・里の環境に適した動植物のソースが園内もしくは周辺に残されていると考え、その回復・保全を行うことで多様性向上を図る
- ・農薬を極力使用しない

【モニタリング計画】

動植物とも、作業の中で日常的に観察を行い、在不在の定性的な確認を行っている。特に希少種や里環境を象徴するような種には留意している。

スタッフが同定困難なものが多い分類群（例えば蘚苔類）についても情報を得るよう、専門家への調査依頼なども行って生物相の把握に努めている。

【実施体制】

生物・環境に関する知識を有するスタッフを雇用しており、日常的に管理作業の中で観察・確認を行い、新たに見つかったものはリストに追加する。ただし、同定が困難な分類群（菌類や蘚苔類など）は必要に応じて専門家との連携や調査依頼のもと実施する。



左手に棚田など里地の景色、奥に里山のエリアが写っている。
里の風景を残す管理が生態系の保全につながっている。



環境学習の様子

【計画期間】

令和7年9月～令和12年8月